

いなかの りんじん  
あゝろげいんとん

編集：九州教区教会協力委員会

あわいの力

教会協力委員長 深澤 奨

互助は内臓感覚

最近注目している出版社、ミシマ社の「シリーズ22世紀を生きる 第二弾!!」として「あわいの力『心の時代』の次を生きる」が出版され、大いに刺激を受けながら面白く読みました。著者の安田登さんは、本職は能楽師ですが、甲骨文字やヘブライ語、古典ギリシア語などにも造詣が深く、中国古代哲学や旧・新約聖書にも通じている方です。

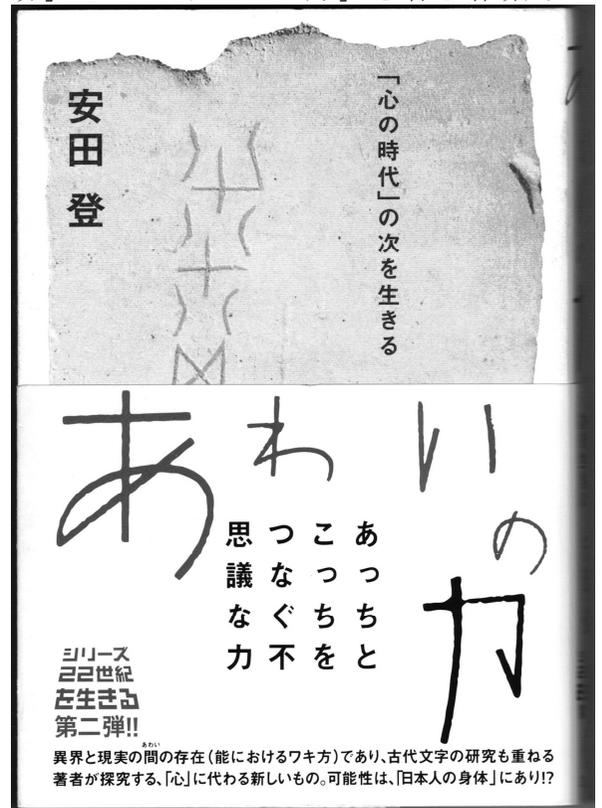
タイトルにある「あわい」というのは、今で言えば「間」という言葉の古語にあたります。三千年以上前の古代においては「心」という言葉や文字はなかったそうで、やがて「心」が発見され、心に発する思想や思考に重きが置かれるようになって久しいけれども、古代においては人間の内にある「こころ」よりも、人間の間にある「あわい」の方が大切だったと、彼は言うのです。その「あわい」、あっちとこっちをつなぐ不思議な力に、そろそろ気づいていきませんかと訴える、簡単に言うとそういう本です。

その主張は、たとえばルカ福音書17章に記されるイエスの言葉、「神の国はあなたたちの間にある」という言葉とも通じ合います。神の国は個人の心の中にあるというようなものではない。あなたがたの間「あわい」にあるのだとイエスは言いました。つまり神の国は個人的に所有するものではない、人と人のあわい、

間に生まれるもの、それが神の国だということです。

著者はまた、「内臓感覚」というものにこだわります。「心」の感覚としての思想や思考ではなく、「内臓感覚」が大事だと。そこで著者は聖書の中でイエスが抱かれた「内臓感覚」として「スプラUNKニゾマイ」（※「はらわたをかき回される」というほどの意味を持つギリシア語動詞）について論じます。その主張は我々の「互助」の精神とも重なり合っ

て聞こえてきます。大切なものは個々人の心の中ではなく、「あわい」にある。我々が推し進める「互助」とは「あわいの力」を育む作業なの



だと思います。イエスが言うように、神の国は、そのあわいに生ずるのだと思うのです。そしてその「あわいの力」の源泉は、心ではなく内臓感覚にある。同じ思想信条だから助け合おうというのではなく、困難の中で苦闘している仲間のことを内蔵で感じて、居も立てもたまらなくなる、その感覚が「互助」を支えているのではないかと思うのです。

## 今は鳴らない笛も

さて著者は聖書のギリシア語やヘブライ語まで取り上げて「あっちとこっちをつなぐあわいの力」を論じてみせるのですが、やはり本職は能楽師です。その本職に関わるお話には、さらに訴えるものがあります。能で用いられる笛や鼓についてこんなことが書かれていました。

笛方は、稽古をある程度積み重ねていくと、師匠から、使っていた笛を譲られます。そういう笛は師匠から弟子へと代々受け継がれてきた名管ですが、弟子が譲り受けて吹き始めても、しばらくは全く音が鳴らないようなのです。(中略)能の笛というのは、わざと音が出づらいように作られているんじゃないかと思うような構造になっています。しかしだからこそ、稽古を積み重ねた結果いい音が鳴るようになります。(中略)ある笛方の人は「いい笛」を見つけるとすぐ買ってしまおうそうです。中には一本100万円以上もするような高価なものもあります。ただ、その笛を買っても、すぐには音が鳴らないことも多いそうです。

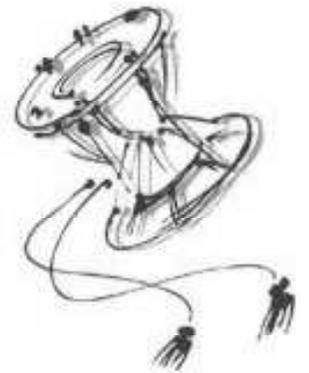
毎日吹き続けていけば、数十年後に鳴り始めるかも知れない。が、ひょっとすると、その人が生きていうちには音が鳴らないかもしれない。じつは全然ダメかもしれない。でも、吹くことをやめたら、その笛が鳴ることは絶対にありません。代々受け継ぎ、何百年後かによくいい音が鳴り始めるということもあるかも知れません。本当に「いい笛」なのかどうかは、かなりの時間が経たないとわからないのです。そういう話は能の世界では事欠

きません。

ある方が鼓の革を買ったとき、「この革は今では鳴りません。でも、毎日打ち続けて50年経てば鳴り始め、一度鳴れば600年は使えます」と言われたそうなのです。その方は当時35歳。つまり85歳になってようやくいい音が鳴り始めるということです。85歳まで生きる保証はどこにもありませんし、毎日打てるとも限らない。ひょっとしたら、その鼓がいい音を出すのは100年後、150年後かもしれない。

でも能の世界ではそれが当たり前感覚です。自分の力で何かを成し遂げようとか、自分一人でこの楽器の良し悪しを評価しようとかいう思いがあったら、とてもじゃありませんが、こんな世界で生きていくことはできません。目の前にあるものをとにかく次の世代に受け継いでいく。能楽師のその心持ちが、650年続く能の歴史を支えていると思うのです。

これは能の世界のお話ですが、教会においても全く同じだと思いながら読みました。今はまだ良く鳴らない笛や鼓のような教会が、九州にはたくさんあるのではないのでしょうか。伝道を始めてから50年経っても100年経っても、思うような福音の音色を町に鳴り響かせることができない。でも、鳴らないからと言って吹くこと打つことをやめてしまったら、それが鳴り始めることは絶対にないのです。いい音を出すのは100年、いや150年後かも知れません。もしかしたら、わたしたちの代では成し遂げられないのかも知れない。そうであつてもあきらめずに、信じて吹き続け、打ち続ける。次の代に引き継いでいく。それができるように互いに支え合い続けるのが、わたしたちの互助の働きだと思うのです。[Ω]



# 新任教師の皆様！九州教区の教会協力(互助)は おおよそ、このような仕組みになっています

## 1. 教師謝儀保障援助金(互助)

2015年度は教師謝儀保障援助金として約1750万円を10教会・伝道所に配分しています。その原資は、各個教会から納められる互助負担金からの650万円(例年は1050万円。伝道資金負担金とのかねあいで今年度は減額)と互助献金から1100万円です。互助献金が目標を達成すれば、給付額が原資の範囲内に収まる計算です。

なお、2016年度の互助申請が現在受付期間中(8月末申請書提出締切)となっていて、12～13教会が申請を予定していません。給付額は2000～2100万円にのぼると予想されます。いよいよ給付額が原資を上回り、互助資金特別会計(積立金約6800万円)を取り崩していかねばならない状況に至ります。互助制度を安定的に継続していくためには、互助献金へのいっそうのがんばりが必要です。

もう一つ大事なこと。教師互助献金！これについては項目を改めて申し上げたいと思います。

## 2. 伝道費援助金

2010年度より新設された援助金で、まだ認知度が低いのか、十分に用いられていません。教区の定める謝儀基準を満たしていない教会であれば、伝道活動に要す

る費用の補助を申請することができます。総額120万円を毎年予算として準備していますが、今まで限度額に達したことはありません。伝道のためどうぞお用いください。1教会あたり年額最大24万円までとなっています。

## 3. 緊急援助金

風水害、地震、火災、シロアリの被害など、不測の出費を補うための援助金です。限度額は20万円。蓄えが不足しており、緊急援助金献金を募っています。これも覚えてお献げください。

## 4. 教会整備資金

土地取得、建物の新築、補修など、教会の整備にかかる費用の一部を援助する制度です。資金としては年200万円を限度とし、同一教会に対しては100万円を最高として連続3回まで。順番待ちになる場合もあります。

返済の必要のない援助金ですが、若干高いハードルとなるのは、地区総会の承認を必要とし、計画総予算の10分の1もしくは100万円の小さい方の額を当該地区内の諸教会で負担しなければならないこととなっている点です。それゆえ申請に当たっては地区との連絡と信頼関係を密にしておくことが大切です。

## 教師互助献金！ まちっときばらんば！！

1999年度の九州教区総会は、互助献金への教師の積極的な参加を呼びかけ、全教師が収入の1%を目標に献げる教師互助献金の導入を決議しました。しかし近年、この認識が薄れてきているようです。2015年版の教団年鑑によれば、九州教区全教会の教師謝儀合計額は317,116,000円です。その1%ということは、3,171,160円！計算上は300万円を超すわけじゃないですか。しかもこれは純粋に教会からの謝儀だけの合計額です。教会によっては、幼稚園などの附属施設からの収入を得ている教師もあるでしょう。それを含めての1%です。みんながこれを正直に誠実に履行するなら、目標1100万円のうちの3割以上を教師互助献金でカバーすることができるはずなのです。

それがどうしたことでしょうか。2014年度の教師互助献金は1,245,100円、2013年度の1,751,883円からさらに50万円も減少しています。教師互助献金が計算どおり献げら

れていたならば、目標額の1100万円は軽くクリアできたのです。1%の教師互助献金。是非とも達成しましょう。なお、教会で集めた互助献金と教師互助献金を一緒に送金なされる場合は、教区事務所に教師互助献金が含まれていることとその金額をお伝えいただくようお願いいたします。

## もらってうれしね

皆さん遠慮してませんか？

福岡警固教会の西岡裕芳教師からご提供をい申し出ているスーパーカブ。希望者が殺到するかと思いきや、いまだ誰からも声がかかりません。よって、今回も継続して掲載いたします。以下、西岡教師からのメッセージです。

スーパーカブ50カスタム(排気量49CC 原付)、年式は2002年のようです。2009年に前任地の京都で、中古で購入して日常的に使ってきました。現任地福岡では、近場は自転車が便利です、遠方は自動車を使うので、ほとんど利用なくなりました(ついでに、なぜかヘルメットだけ盗まれてしまって、この半年ほどは全く乗れなくなりました)。それで、思い切って手放すことにしました。ちょっと古くなっていますが、エンジンの調子は悪くありません。走行距離は16,800キロほどです。大きなリアボックスもついていますので、荷物もたくさん運べて便利です。使っていただけたら嬉しいので、お入用の方がいたら差し上げます。ただし、2014年4月に5年分の自賠責保険に加入したので(合計17,330円)、残期間の保険料だけご負担いただくとありがたいです。



## 互助献金中間報告 (2015年6月末現在)

新年度がスタートして3ヶ月、四半期を過ぎようとしています。ここらで互助献金の中間報告を。6月末現在で達成度としては目標額の1割強(T\_T)。目標未達成に終わった昨年度とほぼ同額です。もう少し頑張らないといけません。ただ少し明るい材料は、教師互助献金が昨年同月の2倍になっていることです。教区総会で少し強調してアピールしたのを受け止めていただけたのでしょうか。ご協力をご感謝いたします<(\_)>。

この調子で、信仰をもって、連帯の喜びをもって、献げてまいりましょう。

2015年6月末現在

昨年同月

教会互助献金

1,161,660円

1,142,100円

うち教師互助献金

333,200円

157,300円

